KYOTO Technical Site

平成15年10月11日のエリア・ジャック。日本で最も、成功したイベンターの話。

取材・文／編集部

レインボーブリッジは、封鎖されなかった。

先頃公開された映画、「踊る大捜査線 THE MOVIE 2～レインボーブリッジを封鎖せよ！～」。タイトル通り、劇中レインボーブリッジを封鎖して事にあたるシーンが登場する。だが撮影に際しては、レインボーブリッジは使われなかったという。実際にそのシーンの撮影をした場所は京都。開通前の久御山ジャンクション付近だったそうだ。公道を通行止めにするのは、既に記録的な観客動員を記録した映画のパート2のネームバリューを持ってしても、なかなかに難しいらしい。

件の映画の撮影から約半年。京都の公道が通行止めになるイベントが行われた。レインボーブリッジに比べれば、通行止めになった道の知名度も長さも幅も、比肩すべきでは無いかもしれないが、京都で公道を通行止めにして行われるイベントなど、祇園祭や時代祭ぐらいのもので、異例のことだ。いや、この場合、「大したものだ」と表現するべきか。平安神宮から仁王門通に至るおよそ数百メートル「神宮道」を止めたのは、学生だ。

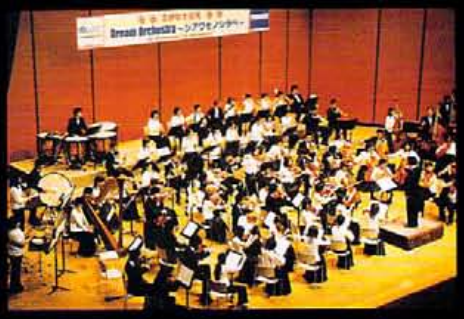
IT革命。それに似た、自由なラインで繋がる大学

「歴史」「文化」…。京都を評する枕詞は数多ある。「学生の街」。これもまたひとつ。京都市内だけでも、四年制大学、短大を含めて38もある。京都府下を含めれば、さらに増える。

インターネットがいかに革新的な技術かが騒がれたのはもう数年前。端末から端末へ…。特別な媒介を通らずに、ラインが張り巡らされる図式やチャートは、今では誰もが頭に思い浮かべることが出来るだろう。例えが突飛かもしれないが、同じように「横にダイレクトに繋がる」という革新が、ここ数年、京都の「大学界」で行われている。

具体的には大学同士の「単位互換」や「市民への公開講座」などであり、府内の大学が加盟した「大学コンソーシアム京都」という組織が、その後見としてある。さらに「京都・学生フェスティバル」という自然発生的な学生主導の合同学園祭が、3年前からJR京都駅室町小路広場で行われている。それらは今年、日本初の試みとなる各大学の学園祭に先駆けての、都市を挙げての合同学園祭「京都学生祭典」への布石となった。

その実現に際しもう一つ、大きな要素としてあり、主催する学生からすれば僥倖であったのは「学生の街・京都」に居を構える経済界に、祭りを熱望する気運があったこと。そして幸運はもう一つ。京都の大学に倉木麻衣という学生がいたこと。このフェスティバルの主旨に賛同し、彼女はいち学生として手を挙げた。彼女が挙げた手は、祭りに大きな一花を添えた。ビジネスとしてではないライブの実現を快諾した所属事務所の懐の深さも、名誉のために追記しておく。



「平安神宮周辺」…その大ざっぱな会場にて

そして今年、10月11日。第一回「京都学生祭典」は開催された。会場は平安神宮「周辺」。何とも大ざっぱな案内だが「岡崎グラウンド」「岡崎都市公園」「京都会館（第1・第2ホール）」、さらに「平安神宮境内」に特別ステージ…。実際「どこととこで～」と説明するのは難しいほど、広範囲なのだ。

オープニング・パレード、神宮ストリートステューデント・ミュージアム…。せっかく止めた公道も最大限に利用し、各所でパフォーマンスやライブが行われ、「学祭」には付き物の屋台の類も、めいめいに出た。それらは会場の規模からすれば、あまりにも普通の、どの大学の学園祭でも見られるものだったかもしれない。だが、学生に分不相応な豪華な屋台などはもう必要ないのだ。企業ブースも同様だ。学生の祭りに「間借り」した、慎ましいブースには好感すら持てる。

無茶も無理も、違法な事をしているわけでもない。出来る限りの規模を実現した。それが、重要なことだ。今はバブル期ではない。

来年はどこを標的にする？偉大なるエリア・ジャック

約30年前、京都は学生運動の最中にあった。京大西部講堂というメッカを得た学生達は熱く語り、歌った。彼ら一人ひとりの体温は、集うことで街の温度を上げた。15年ほど前、バブルという時の利を得た学生達はビジネスに走った。組織を作り、人と金を動かすことで、街の温度を上げた。

過去と今と、何年も前の学生と今年公道を止めた学生とで、違うこと。自然発生的に興った過去の学生がフィーチャーされたそれぞれの時代には、抑止しようとする大人や、傍観した大人がいた。だが、今は支えてくれる大人がいる。

識者は言う。「昔に比べて、今の学生はおとなしい」。確かに事実かもしれない。だがそれは暴走しないだけだ、とも言える。

日本有数のディーバを得て、秋の平安神宮の温度はおそらく今年一番高くなった。バブル期にイベントを興した学生達が集めた金額の比ではない、この1日の為に1億という開催予算を平成15年の学生は実現し、10万2千人という動員数を記録した。

11日の夜遅く、交通整理をする警備員氏の合間を縫って、後片付けに、ゴミ箱代わりの大きなダンボールを引いて歩く女子大学生。その日一日、相当な仕事量をこなしたのだろう、疲れもしていただろう。だが彼女は笑っていた。

「平安神宮周辺」。この大ざっぱだが、偉大なる、学生のエリア・ジャック。それがいかなるイベントであったかは、彼らの表情で解ろうと言うものだ。